

問1 日本の国内における旅客輸送の状況について、東京都から北海道への移動を事例として説明した文として、適切なものはどれか。（2022年 栃木県公立入試 類似）

1. 長距離の移動となるため、速達性に優れた航空機の利用が主流となっているが、新幹線の延伸などにより鉄道も重要な役割を担っている。
2. 青函トンネルの開通以降、鉄道による輸送コストが大幅に低下したため、航空機から鉄道への利用転換が完全に完了している。
3. 環境負荷を低減する目的から、二酸化炭素排出量の多い航空機の利用が制限されており、鉄道が唯一の公共交通機関となっている。
4. フェリーを利用した海上輸送が旅客輸送の中心であり、航空機や鉄道は補完的な手段として位置づけられている。

問2 面積が約83,424平方キロメートルと都道府県で最大であり、多くの外国人観光客も訪れる北海道において、2005年に世界自然遺産に登録された半島はどこか。周辺にはラムサール条約に登録された湿原も存在し、豊かな生態系が守られている。（2017年 愛知公立入試 類似）

1. 知床半島
2. 積丹半島
3. 根室半島
4. 下北半島

問3 北海道の道東、太平洋沿岸に位置する釧路市周辺の夏季の気候について、気温が上がりにくい理由を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。
2. 北西から吹く乾いた季節風が、大雪山系を越える際にフェーン現象を引き起こし、雲を消し去ってしまうため。
3. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風が、山地にぶつかると上昇気流となり、内陸部に大量の降雨をもたらすため。
4. 周囲を高い山々に囲まれた盆地特有の地形により、夜間に冷え込んだ空気が日中も地表付近に滞留し続けるため。

問4 北海道の農業経営に関する統計を分析すると、経営耕地面積が30ha以上の大規模な農家が6割以上を占める一方で、都府県では1.0ha未満の農家が半数以上を占めるという対照的な構造が見られます。また、北海道では農業を主な仕事とする「主業農家」の割合が約74%に達しています。このように北海道で主業農家の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）

1. 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから
2. 都府県に比べて冬の農閑期が長いこと、冬の間だけ工業地帯へ出稼ぎに行く農家が全農家の約8割を占めているから
3. 広大な土地を利用して、小規模な水田では不可能な低コストの米作りを行い、全国の米需要のほとんどを賄っているから
4. 消費地である大都市から遠く離れているため、輸送費を節約するために加工品を専門に作る農家が急増したから

問5 旭川市周辺において、昭和から平成にかけて田畑や空き地が住宅地や発電所へと変化した現象について、その背景にある社会的な要因として最も適切な説明はどれですか。（2016年 京都公立入試 類似）

1. 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。
2. 食料自給率を向上させるために、都市部の建物を壊して農地を拡大する政策がとられたため。
3. 交通網の衰退により、郊外からの人口流出が激しくなり、土地が放置されたため。
4. 自然環境を保護するために、市街地の面積を昭和初期の規模にまで小さくさせたため。

問6 かつて農業に不向きであった石狩平野の泥炭地を、日本有数の稲作地帯へと変えるために行われた工夫や取り組みについて、正しい説明を選んでください。（2025年 千葉公立入試 類似）

1. 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。
2. 大規模な森林伐採を行い、燃やした灰を肥料として土地に混ぜる「焼畑」を繰り返した。
3. 地力を回復させるために、農地を数年ごとに休ませる「輪作」を導入した。
4. 高台から水を引くための大規模な「ため池」を建設し、乾燥した土地に水分を供給した。

問7 北海道では、生産された生乳の多くが飲用ではなくバターやチーズといった乳製品の原料（加工用）として利用されています。このように、北海道で加工用としての割合が高い理由として、地理的な背景から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 岐阜公立入試 類似）

1. 関東地方などの大消費地から離れているため、生乳のまま輸送するよりも、保存性を高めた製品に加工する方が効率的だから。
2. 北海道の気候は寒冷であり、冬場の生乳生産量が極端に減少するため、年間を通じて供給できる加工品に頼らざるを得ないから。
3. 大規模な牧草地で飼育される乳牛から取れる生乳は、小規模農場のものに比べて水分が多く、飲用には適さない性質を持っているから。
4. 政府の農業政策により、北海道産の生乳はすべて工業製品の原料として扱うことが法律で義務付けられているから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 長距離の移動となるため、速達性に優れた航空機の利用が主流となっているが、新幹線の延伸などにより鉄道も重要な役割を担っている。	日本の長距離旅客輸送では、目的地までの所要時間を短縮できる航空機が大きなシェアを占めています。特に東京から北海道への移動では航空機の利用が圧倒的ですが、北海道新幹線の開業など鉄道網の整備も進められており、天候の影響を受けにくい安定した輸送手段として鉄道も並行して機能しています。他の選択肢にあるような「鉄道への完全な転換」や「航空機の利用制限」といった事実は現在の日本にはありません。
問2	答え 1 知床半島	北海道の北東部に位置する知床半島は、流水がもたらすプランクトンを起点とした海と陸の豊かな食物連鎖が評価され、世界自然遺産に登録されました。また、北海道には釧路湿原などラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録された湿地が数多く存在します。
問3	答え 1 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。	釧路市周辺を含む北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った季節風が吹きます。この風が、千島列島から南下してくる冷たい海流（寒流）である親潮の上を通る際に急激に冷やされ、濃い海霧が発生します。この霧が広範囲を覆って太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくいという気候特性が見られます。
問4	答え 1 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから	北海道では広大な経営耕地面積を活かし、大型のトラクターなどを導入した大規模経営が確立されています。労働生産性が高く、1世帯あたりの農業所得を十分に確保できる環境があるため、他の仕事を持つ必要性が低く、結果として主業農家の割合が高まります。一方で都府県は経営面積が狭いため、農業所得だけで生計を立てることが難しく、多くの農家が兼業化（副業的農家など）しています。
問5	答え 1 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。	旭川市における土地利用の変化は、日本の多くの地方都市で見られた都市化のプロセスを反映しています。昭和後期から平成にかけて、都市の規模が拡大する中で、かつて農業に使われていた土地や未利用地が、人々の生活の場（住宅地）や社会インフラ（発電所など）へと転換されました。これにより、地域の経済活動や住民の利便性が向上した一方で、周辺の自然景観や農地が減少するという側面も持っています。
問6	答え 1 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。	水分過多で栄養不足な泥炭地を農地に変えるため、排水路を作って湿地を乾かし、別の場所から運び込んだ肥沃な土を混ぜ合わせる「客土」などの土地改良が大規模に実施されました。この地道な努力の結果、石狩平野は北海道を代表する米どころとなりました。
問7	答え 1 関東地方などの大消費地から離れているため、生乳のまま輸送するよりも、保存性を高めた製品に加工する方が効率的だから。	生乳は鮮度が落ちやすく、液体であるため輸送コストもかかります。北海道は人口の多い関東地方などの大消費地から距離があるため、生乳のまま運ぶよりも、工場バターやチーズに加工して保存性を高め、体積を減らしてから輸送する方が、経済的合理性が高いという背景があります。一方、都市近郊の酪農地帯では、新鮮さが求められる飲用乳の供給が中心となります。